

滋賀県立高等学校再編計画（案）説明会 意見概要
＜彦根市河瀬地区公民館＞

- 日 時 平成24年(2012年)11月2日(金) 19:00～21:00
- 場 所 彦根市河瀬地区公民館（保護者対象:参加者13名）
- 主な意見 ※ 同趣旨のご意見については集約して取りまとめました。

- 再編はスムーズに進んでほしいと思っている。昨年の計画原案に対する意見を受けて、今年の家ができたと感じている。感情的に統合を引き延ばしたいとの思いはない。新校に向けて時間やエネルギーをかけてほしい。
- 再編して長浜高校、彦根翔陽高校、長浜北星高校を新增築する場合の費用と、再編せずに耐震化する場合の費用はどれくらいか。県立高校の他校も雨漏り等しているが、予算の優先順位として、この3校に全て使われるのか、他校の修理もした上でなのか。
- 校舎を新增築するのに県債を発行した時、負債としての金額はどれくらいか。
- 民間企業なら赤字経営となればレイオフや退職金の削減などあるが、借金を背負うときは、誰が責任を取るのか。費用に関する資料も出すのがフェアなやり方だと思う。
- 再編計画は、平成20年7月から時間をかけてきたものと理解しており、原案はそこそ良い案だったのに、なぜ9学級にするなど内容を変えられたのかしっくりこない。学級数は概ね6～8学級を標準とするとなっているのに、新校を9学級とするのは、彦根翔陽高校の校舎をよく知っている者には理解できない。9学級の総合学科となれば、教室、職員室、体育館や部活動設備も、総合学科なので膳所高校以上の校舎が彦根翔陽高校に建つのであろうと思っている。
- 平成26、27年度に入学した生徒は、彦根翔陽高校校地で学ぶとあるが、カリキュラムや制服はそのままで、学ぶ場所が変わるだけか。同じ場所で学ぶ意味が分からない。入学する生徒は、それで良いと思うのか。生徒を動かすのではなく、先生が兼務で校地間を動く方法はないのか。そのような統合は以前にあったのか。
- 統合の進め方について、校舎はそのままで、閉校式でけじめをつけたほうが気持ち良く終えられると考える。この案は、もう変わることはないのか。
- 計画原案では、統合の進め方も各校で終わるとなっていた。制服も校則も違う3校が一緒となる2年間については、子どもの学習環境としても、学校の先生の立場を考えても避けてほしい。
- 彦根翔陽高校を保護者として7年間見てきたが、先生方の努力でレベルが上がってきた。今年の夏は、過去最高の人数の中学生が学校説明会に来ている。国公立へもたくさん進学している。今まで学んできた子どもたちのためにも、新校になって、今の彦根翔陽高校のレベルを下げてほしくない。高校名が変わっても先生方の努力を台無しにしてほしくない。
- 高校入試の推薦枠は、統合により少なくなるのか。
- 大学へ進学するなら普通科であって、総合学科で色々なことを学んで大学へ行くのは問題がないのか。
- 総合単位制については、県外でも全定併置校があるが、廃止になっているケースがあるのになぜ滋賀県でやろうとしているのか。
- 全日制と定時制の生徒が相互に併修ができて、単位修得が難しいなど、結果的に子どもた

ちの教育を保証できなくなるのではないか。

- 大津清陵高校では転編入の場合、前の学校の単位を活かせるが、能登川高校では可能なのか。
- 団塊世代があと10年くらいで老人ホームへ行き、福祉の求人が増えるだろう。今後、福祉学科の就職は良いと思う。長浜北星高校6学級のうち、3学級を福祉学科とし、残り3学級を総合学科にしてほしい。最初から福祉学科で選び、その道のプロとして日本全国どこへ行ってもやっていける。